

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400359		
法人名	NPO法人 エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 神辺		
所在地	広島県福山市神辺町字上御領391-1		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成23年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、雨の日以外は事業所の庭に全員で日光浴・体操・歩行練習・歌を唄ったりしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小学校、公民館が近くにあり、豊かな自然に心癒される環境の中で、穏やかに職員と会話を楽しみながら過ごされている。また、日々散歩を日課とし身体機能維持に努めると共に管理者、職員が常に利用者の思いを汲み取り、楽しみごとの支援として外出の機会を多く持ち気分転換や五感刺激となるよう取り組まれている。地域行事にも積極的に参加し交流を持ちながら楽しい我が家と呼んでいただけるような環境づくりを目指し全職員が思いを一つにし日々努力されている。職員も明るく楽しい雰囲気が感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自で十ヶ条を毎朝唱和して、実践に結び付けている	法人理念と共に開設時全職員で考えられた事業所独自の理念を毎朝唱和され職員間で声かけをしながら日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事、溝掃除等に参加している。又ホームの行事に近隣の方を招待したり、ボランティアで来て頂いている。	町内の清掃活動や色々な行事にも参加している。地域のお祭り等には事業所まで太鼓が来たり、また、小学校のお別れ会等にも招待してもらったり地域の一員として接してもらっている。ボランティアの受け入れも積極的にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月一回の「愛の郷便り」を配布して、理解に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3ヶ月に1度の割合で開催している。会議では状況を知らせると共に、意見を広く求めてサービスの向上に努めている。	定期的開催し、家族代表、民生委員、町内会長、老人会長、行政、地域包括等の参加により現状報告やホーム長の方針発表等がされ、意見交換を行い、そこでの意見は真摯に受け止めサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	愛の郷便りを公民館や地域包括センターに持参して、連携を深めている。	生保関係の行政担当者との連絡等でお会いする機会が多い為顔見知りの関係が出来るので困難事例や問題点など気軽に相談できる関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回身体拘束委員会を開き身体拘束に向けて検討し、しないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。身体拘束をしないケアに全職員が共有し取り組んでいる。不穏になる方の場合には職員が連携を取り見守りで対応している。	禁止の対象となる具体的な行為について全職員が正しく理解するため、今後も研修を積み重ねられ、周知していかれることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を持ち、高齢者虐待防止の再確認をしてお互いに見過ごされることの無い様、注意する。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで研修の機会を持っていなかったの で、今後取り組んで行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は書類を通して、十分に説明を行い、又、疑問点も聞き納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進委員会、季節の行事に参加してもらい意見を聞き、運営に反映している。	運営推進会議や訪問時等に出来るだけ家族との対話時間を持ち、聞き取るようにしている。その中での意見は職員に周知すると共に個々に対応し運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの時、又、毎月のミーティングで職員の意見を聞く機会を作り、反映させている。	申し送りの際、提案や意見を聞いたり、月1回のミーティング時、意見交換の場を持ち、多くの意見を聞くよう努めている。出された意見や提案については、リーダーやホーム長等で検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状態を把握し、又、自己のチェック表を作り目標を定め、向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、本社で行われる新人・スキルアップ研修に、職員を必ず参加させるようにし、又他の職員にも伝達する様テーマを掲げ皆で研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流、又、研修会等で知り合った同業者とも交流を定期的に行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望、嗜好品、趣味などを聞いて、それに沿うようにし、不安感を持たせないようにしている。また声かけの機会を少しでも多く持ち本人の安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の思いや願い、又、ご家族の困っていたことやご要望当をお聞きして信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が何を一番求めているかを理解し、その要望に沿った支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ手や口を出しすぎず、さりげなく見守りながら支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活援助計画を説明して、共に共有することで家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の親戚や知り合いの方が気軽に訪ねてきやすい雰囲気作りに努力している。	帰宅願望のある方は自宅近くまで行ってみたり、電話をする事もある。また、お友達が訪ねて来られたり、親戚の方も気軽に訪問される。来られやすい雰囲気づくりに心掛け関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	周囲との意思疎通が図れない状況が多いが職員が間に入ることで利用者同士が関わりを持つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの家族との絆を大切にし、必要に応じてフォローすることに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記憶に残っていることを引き出し、本人のしたいことを見出してあげ、困難な場合はさりげなくフォローする。	コミュニケーションを大切に日々の会話の中から汲み取るようにしたり、表情や動作の中からも思いを把握している。困難な場合は生活歴等から把握し、できるだけ意向に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけそれまでどおりの生活が継続できる様、それらの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい生活ができる様に常に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは勤務当日の職員全員で行い、普段から本人や家族からの要望を吸い上げ、それを参考にして介護計画を作成している。	日々のケアでの気づきや課題を一人ひとりの担当者から聞き取ると共に家族の意見や要望も取り入れ、カンファレンスをし全職員で話し合い、ケア担当者が作成し、家族の承諾を得ている。見直しも3ヶ月に1回されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化を個別記録に記入すると共に、朝・夕の申し送りの際に口頭でも詳しく伝え共有に努め、介護記録の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今の状態監察を続けて常に先手を打つ思いで対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームにおいても地域資源を活用するように努め本人が心身の力を発揮できる様に努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の既存の掛かりつけ医に重点を置き、本人ご家族の同意の上でグループホームの属託医に変更していただき、肌理細やかな治療が出来る様に努めている。	家族や本人の希望をもとに対応している。かかりつけ医への同行支援もされ状況把握に努めている。協力医療機関の往診も月2回、また状況変化により訪問看護や夜間対応も出来る体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は普段の観察で気付きや状態変化を看護師に相談して適切な受診ができる様、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は入院先の相談員やご家族と連絡を取り合い、安心して治療が出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方についての方針はご家族や医師と連携し決めている。全職員でカンファレンスを行い、方針を共有している。	利用開始時に方針については説明を行い、かかりつけ医や協力医療機関と連携を持ち、状態変化によりその都度、家族や必要な関係者と話し合い、対応出来るよう取り組んでいる。職員研修も行き方針を共有しチームで支援できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が入院した場合は入院先の相談員やご家族と連絡を取り合い、安心して治療が出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災・避難訓練を行うと共に地域の方の協力を得る為の働きもしている。	年2回避難訓練はされている。また、地域の協力体制の働きかけもされている。	運営推進会議で問題提起され、協力のお願いを引き続き行うと共に近隣に対しても訓練のお知らせを配布し、参加してもらえよう働きかけながら、地域の協力が得られる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを考えながら言葉掛けをするように尊敬と慈しみを持った対応を心がけている。	日々のケアの中や申し送りの中で話し合ったり、一人ひとりが人生の先輩としての対応に心掛けるようにしている。笑顔で優しい言葉かけをするという目標を掲げ実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から言葉以外のスキンシップにも心掛け、本人が自己決定できる様な環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な生活ができる様、一人ひとりのペースに沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部介助や本人で行為できる方は出来るだけ手や口を出しすぎず、身嗜みやお洒落が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の自立に向けた取り組みをすると共に、利用者と職員と一緒に食事をするように心掛けている。	利用者も職員も同じものを食べ、食を促す声かけや楽しい会話をしながら支援されている。食事形態や食事時間も配慮され、ゆっくりと楽しみながらの食事時間となっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握は出来ている。水分が不足しがちな方はおやつ時とそれ以外の時にこまめに摂取できる様取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア行っているが自力で出来ない方や十分な口腔ケアが出来ていない方は職員が援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用になっている方も日中は、できるだけトイレ誘導してトイレでの排泄にこだわっている。	排泄パターンに応じ個別の支援に心掛け、トイレでの排泄を大切にしながら一人ひとりの力に合わせ出来るだけ自立に向けた支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日各人の排便チェックを記録し早めの便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方は毎日楽しまれながら、そうでない方も週二回は必ず入浴していただき清潔の保持に努めている。	希望があれば毎日でも入浴できる体制となっている。拒否の場合は工夫をしタイミングを見ながら、週2回は入浴してもらい清潔保持に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ一人ひとりの今までの生活習慣に沿うよう心がけ、その人らしくをモットーにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬量と副作用には注意し、状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人々が出来ることを把握し毎日がメリハリある一日となるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝ホームの敷地内ではあるが、外に出ることを日課としている。春夏秋冬の節目には外出をして四季を肌で感じてもらう様、支援している。	機能維持の為、日光浴や散歩等日課としている。また、四季の外出や短時間でも戸外に出る機会を多く持ち、気分転換や五感刺激となる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の施設ではあるが、金銭管理のできる方にはお金を所持してもらい買い物を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り職員の少しの支援で電話を扱える方はしていただいている。又、手紙のポスト投函は職員が手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は室温を一定に保ち整理整頓に注意して動きやすいようにしている。季節感のある貼り絵や置ける位置には花等を飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	生活感や季節感のあるものが飾られ、食事を作る音や匂いが五感刺激となり、また不快な匂いや音、室温等の配慮がされた共有空間で穏やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に畳を敷いた場所作りをして日本人らしくを取り入れている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個性を感じさせる居室には仏壇や位牌、又、家族の写真・使い慣れた家具等で居心地良く過ごせる工夫をしている。	思い出のある写真や装飾品、テレビ等を持ち込まれ、自分らしさが感じられる居室で居心地良く過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで安全にしており、トイレ標示・居室のネーム標示で自立した生活ができる様、その工夫に心掛けている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6 (5)	身体拘束をしないケア 玄関に施錠をしない 家に帰りたいと帰り支度をし外に出る	何をしたいかどこに行きたいか聞き気が済むように対応する	どうしたらいいか、どうしてほしいかを対応し記録しカンファレンスを行う	1カ月
2	6 (5)	立位が悪いが立ち上がり歩こうとする	行こうと思っている所へ誘導 (トイレの訴えが多い)	たえずコミュニケーションを取りどうしたいか聞いてあげすぐに行動ができるよう職員がそばで見守り声かけを続ける	毎日
3	35 (1 3)	地域との交流と協力体制	家族や地域に行事を知らせる	便りを配布していき行事があれば早目に便りを送ったり配る	毎月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。